

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 事業名 | ふれあい町づくり 大日堂 |
| 事業主体 (連絡先) | 沢村町会 松本市沢村 1-4-23 TEL 0263-32-9785 |
| 事業区分 | (3) 教育、文化の振興に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト・ハード |
| 総事業費 | 529,885 円 (うち支援金: 368,000 円) |

事業内容

1. 講演会と大日堂文化財の見学

深志高校「鼎談深志」「地歴研究会」と沢村の文化財について学習会を行った。地域に根付く広域交流を促進し沢村の文化財について共有する事ができた。

2. 子ども達への「沢村音頭」の練習会の実施

「沢村音頭」の踊り手は高齢化の進展により先細り感がある。そこで将来を見据えて伝承を確実なものとするためにオリジナルTシャツを作成し練習を行った。

3. 第3回沢村納涼祭の実施

支援金活用事業として始まった行事、町会の活性化に寄与している、今年は参加者 200 名を超え、沢村町会一番のふれ愛行事となった。子ども達がオリジナル T シャツを着用、沢村音頭の練習成果を披露した。

4. 焼き芋会の実施

子ども達が櫟の落葉を拾い自然の恵みに感謝、子ども達の活動は町会組織への良い刺激となった。



沢村音頭 地域への広がり



秋空の下、焼き芋会開催

事業効果

1. 沢村音頭の復活と広がり、城北に定着しつつある踊り

子供会のラジオ体操終了後、「沢村音頭」の練習により裾野の広がりを実現。沢村音頭は沢村町会のみならず、踊りを通して城北地区の絆が一段と深まった。

2. 子ども達への文化財勉強会を実施

昨年に引き続き紙芝居による文化財勉強会を実施、地域のお宝をわかり易く説明、理解度を深めた。

3. 講演会・広域協力体制の構築への取り組み

鼎談深志と交流を行い広域協力体制の確立を図った。

4. 焼き芋会

子供達の喜び、発想は町会運営に良い影響を与えた。

【目標・ねらい】

- ① 総活躍町会を目指す
- ② 広域で町会運営の相乗効果を図る
- ③ 高齢者と子供達の交流
- ④ 住んで良かった沢村の実現

※自己評価 【 A 】

【理由】

- 1. 町会が変わってきたという手応えを感じとる事ができた。
- 2. 地域のお宝をより多くの人に披露できた。

今後の取り組み

最終目標として、高齢化がもたらす町会役員のみが運営する町会から脱却し、町会全体で担う総活躍町会を目指し、広域で補完し合う相乗効果を目標とする。町会運営が厳しくなるなか子供から高齢者まで楽しめる生き活きとした町会運営を今後も心掛けていく。